

小学五年

国語

解答と解説

1

問一
イ 21

問二			
こ	読	き	レ
と	本	は	シ
。	ー	、	ピ
	を	母	の
	開	の	ア
	く	ま	イ
	と	ね	デ
	決	を	ア
	め	し	が
	て	て	出
	い	ー	て
	る	家	こ
	と	庭	な
	い	料	い
	う	理	と

22
23
24
25

2

問五 はじめ	問一 エ	問八 そ	問三 手
思	32 問二 イ	し	26 問四 お
考	33 問三 思	て	れ
や	考	、	も
、	考	気	、
終わり	と	31	お
イ	表	27 問五 エ	28 問六 イ
ド	現	34 問四 エ	29 問七 ア
役	35		30
36 問六 ウ			
37 問七 暗			
闇			
に			
閉			
ぎ			
38			

(配点)
 ①〔問二〕 8点、他各5点
 ②〔問一〕 2点、他各5点
 ③ 各5点
 ④⑤⑥ 各2点
 } 計150点

6		5		4		3	
⑥	①	①	①	問二	問一	問八	
暴走	停電	絶	才	イ	A 地	イ	39
61	56	51	46	43	-----	球	問九
⑦	②	②	②	問三	B	工	40
規則	責任	十	ア	工	す	問十	41
62	57	52	47	44	-----	べ	(巻)
⑧	③	③	③	問四	て	の	生
導	根幹	自	キ	イ	-----	C	太
63	58	53	48	45	-----	陽	42
⑨	④	④	④				
述	旅費	心	工				
64	59	54	49				
⑩	⑤	⑤	⑤				
唱	横領	千	力				
65	60	55	50				

【解説】

1

原田マハ『スイート・ホーム』に所収されている「あしたのレシピ」(ポプラ社)から出題しました。レシピ作りに苦勞している「私(未来)」と母の会話の場面ですが、亡くなる前の日の「私」と父との会話が回想の形でさしこまれています。登場人物たちのセリフやしぐさからいねいに心情や性格、仕事への考え方などを読み取りましょう。

問一

B1 置き換え 関連づけ

線①は毎晩、キッチンを書斎のようにつかっている、という意味ですから、答えはイです。ア・ウ「本がある」では、「書斎となる」の説明ができていません。エ「キッチンに本をもちこみ」の部分が不適切です。

問二

B2 置き換え 具体・抽象

線②の指示語「そんなとき」の内容が明らかになっっているか、「母にならって、『初心に戻る』ことにしている」とはどういうことが押さえられているかどうかがポイントになります。「そんなとき」とは、レシピの「アイデアが出てこない」とき、「レシピ作りに困ったとき」です。「ならう」とは、すでにあるやりかたをまねてそのとおりにする、手本にしてみねをする、ということですから、この前の、母のことが書かれた部分に注目します。そこには、「母はいまでも『初心に戻る』この本を開く」とあります。「この本」とは「家庭料理読本」を指していますから、「母にならって、『初心に戻る』とは、母と同じように「家庭料理読本」を読み返すことだとわかります。「どうするということ」と聞かれているので、

文末は「〜ということ。」としましう。

※設問の指示や字数・文字指定に従っていないものは不正解とします。ただし、誤字脱字が一つの場合は減点1点、二つある場合は減点2点、それ以上は不正解とします。また解答の説明に過不足がある場合は減点3点とします。

問三

B1 知識 置き換え 関連づけ

「生徒さんに料理の③ほどこきをしている」とあります。直前に「カルチャーセンターなどでも教えて」とあるように、この部分は、母は生徒さんたちに料理を教えている、というような意味が入るはずです。「手ほどき」とは、はじめて学ぶ人によくわかるように教えることです。

問四

B1 理由 関連づけ

母が「私」の人生の選択を黙って受け入れた理由を答えます。母との会話の場面では、そのような話はしていません。ですから、回想の部分から探しましょう。そこには、「おれも、お母さんも、お前がやりたいことをできへんがまんしてるんが、いちばん切ない」とあります。ここに、どんなにつらくても、「私」がやりたいと思うことをやってほしい、という父、母の考えが示されています。

問五

B1 理由 関連づけ

母が作り、教える料理は、「ていねいに下ごしらえをし、だしを取り、ひたすらやさしい味に仕上げる」というもので、「それが料理のすべて」だと「私」も考えています。そのような料理のレシピを作るのに「行き詰まったとき」は「お父

さんやったら、何が食べたいかな」と考える理由を答えるという問題です。家族に「元気でいてもらうために、何を作ろうか」と考えて作る料理は、母の「ていねいに下ごしらえをし、だしを取り、ひたすらやさしい味に仕上げる」料理であり、すなわち料理の本質をついたものでしょう。行き詰まった時こそ料理の本質にたしかえろうというわけです。ア「病気の」時の父だけを思い出しているわけではありません。イ「父に：伝えた時の気持ち」とありますが、――線⑥に「表は」とあるように、母は、「私」が病床の父に自分の夢や悩みを打ち明けたことを知りません。ウ「父が亡くなったときのつらさを思えば」という表現と――線⑤の直後の「お父さんやったら、何が食べたいかな」という表現がつながりません。

問六

B1 置き換え 関連づけ

――線⑥の私の気持ちは、そのあとのセリフからよみとれます。そこには、「やってみたいけど……夢やけど……その気持ちとおんなじくらい、不安でいっぱいやねん。 どうしたらいい？ お父さん」とあることから、「私」がやりたいという気持ちとできないかもしれないという不安で苦しんでおり、父に助けをもらいたい、いいアドバイスがほしいという気持ちになっていることが読み取れます。これと重なる選択肢はイです。ア・ウは不安の内容が一部しか書かれておらず、また、ア「しかつてもらいたい」、ウ「世間から認められるようになるにはどうすればいい」の部分も不適切です。エには、セリフからよみとれる、夢と現実との間で苦しむ「私」の気持ちが示されていません。

問七

B1 置き換え 関連づけ

――線⑦直前で父は「人生でいちばんやりたいこと」という言葉を口にしており、――線⑦の直後で「ああ……家に帰りたい。明日、食べたいなあ。お母さんと、未来と、ふたりして作った手料理を」と、その時の父が「いちばんやりたいこと」をつぶやいていることに注目しましょう。ここから、アの「何も思い残すことはない」は「あてはまらないもの」だとわかります。

問八

B1 推論 関連づけ

脱文挿入の問題では、そのもともとあった文のつなぎことばや指示語に注意することが大切です。この場合、「それなのに」という逆説のつなぎことばに注目しましょう。それに続く内容が、料理に興味を持ち、料理に関係する進路を選んできた、ということですから、この文の直前には「料理の道に進んではいけない」、というような内容がしめされるはずですが、

2

齋藤孝の『書ける人だけが手にするもの』（SBクリエイティブ株式会社）から出題しました。「書くこと」によって、

自分の内面が明らかになることが書かれています。それは、試行錯誤しながら「書く」うちに、自分でさえ把握できていなかった自分の内面が「文章」という目に見えるかたちになるからです。つまり「書く」ということは思考を深める行為であるともいえるわけです。読者にもわかりやすい具体例を出し、たとえの表現も用いながらやさしい言葉で繰り返し説明しているのが、少し長いですが、非常に読みやすい文章だ

といえます。具体例を示す「たとえば」、言い換えを示す「つまり」、まとめの「このように」などの表現に注目しながら、主旨をつかみましょう。

問一 B1 知識 置き換え 関連つけ

① 次の段落に、文章を書くことは「労力を要する」とあるので、ここには物事をするとき苦勞が多い、という意味の「骨が折れる」という慣用句を使うのがふさわしいといえます。ア「指南役」：武芸などを人に教える人、イ「頭文字」：文章や名前のはじめに書く大文字、ウ「過不足」：余ることと足りなくなること、エ「屋台骨」：一家、組織などを支える中心となる人、という言葉がそれぞれ入ります。

問二 B1 置き換え 関連つけ

線②の五段落後に「つまり、『書くことで自分の考えがはつきりする』というのが、文章を書くことの最大のリターンではないかと思う」とあります。「つまり」などのまとめの表現、問いの文の中の「最大の『リターン』」などの言葉をもとに答えとなる箇所を探しましょう。

問三 B1 置き換え 関連つけ

「考えながら書く」「書きながら考える」という表現は、⑧の二段落前にもあります。そこには、「考えながら書く、書きながら考える…かもしれません。でも、この『思考と表現を同時に行う』ということは、みなさんが日常でよく行っている」とあります。

問四 B1 理由 関連つけ

線④の直後に「たとえば」とあるので、この具体例を読めば、線④の「書くこともまた、思考の一部といえる」理由が示されているはずですが、そこには、感動を文章にしようとするならば、「自分に問いかけながら探る必要がある」とあります。書くためには、言葉を使って「自分自身と対話する」(思考する)必要があるのです。続く線⑤、線⑦を含む段落でも補足の説明があります。「書き言葉」で表現している中で、自分の内面がどんどん現れてくる、つまり思考が深まっていく、とあります。つまり、深い思考をするには、内面を「書き言葉」で表現する必要があるのです。ア「自分の思考を…形に残しておかないと…存在しないのと同じ」、イ「考えることが苦ではなくなってくる」、ウ「人に思いが伝わる文章が書ける」というのは線④の内容とは無関係です。

問五 B1 置き換え 関連つけ

「その暗闇」とは「思考や感情がつまっている」暗闇のことですから、書き言葉は、自分の内面を明るく照らして、明らかにしていくランタンのようなものだといえます。このように、言葉の持つ、思考や感情を明らかにするという働きをたとえた表現は、線⑤の三文前の「思考や感情を明らかにしていくガイド役」です。

問六 B1 知識 置き換え 関連つけ

⑥ 直前の「一つひとつ言葉を見つければ、『ああでもない、こうでもない』『そうか、こういうことか!』のように、試すことと失敗を繰り返しながら、正しい解決方法を見つけて

いくことを示す四字熟語は「試行錯誤」です。ア「当意即妙」…その場にに応じてすばやく対応すること。即座に機転をきかせること。イ「問答無用」…議論しても何の役にも立たないこと。エ「優柔不断」…ぐずぐずして、物事をはつきり決めきれないこと。

問七

B1 置き換え 関連づけ

自分の考えや感情を把握することができていないからこそ、書き言葉という「ランタン」を使って明らかにしていくのです。筆者はそのような自分の内面を、「暗闇に閉ざされてい」と表現していました。

問八

B1 置き換え 関連づけ

⑧は「考えながら書く」と同じく、「思考と表現を同時に行う」行為です。「その場で言葉を探し、組み立てながら、やりとりをする」は会話することを指しています。ですから、ここにはイの「話す」が入ります。

問九

B1 理由 関連づけ

——線⑨の直前の文に「つまり」があるので、——線⑨の段落より前の段落に注目しましょう。そこには、「仲のいい友達と食事などしながら会話を楽しむときに…その場で言葉を探し、組み立てながら、やりとりをする…『考えながら書く』というのも、このプロセスによく似ています」とあります。話すということと、「考えながら書く」ということは、「その場で言葉を探し、組み立てながら」行うものだという点で共通しているのです。だから「ひとつながりの能力」だといえ

るのでしよう。ア「肩肘はらずに素直にいられるかが問われる」、「イ」すばやく探りあてる能力が問われる」、「ウ」言葉のみで」の部分がそれぞれ不適切です。

問十

B1 比較 関連づけ

——線⑩を含む一文に、「この違和感の正体こそが、『書く』と『話す』の違いでもあります」とあります。——線⑩の具体例が「たとえば」と、次の段落から始まりますが、読み進めていくと、「このことこそ、話すことをそのまま書き起こしたときの違和感の正体です」とあり、「話し言葉では…伝わりませんが、書き言葉では言葉を言い換えたり、詳しく説明したりしないと、伝えたいことが伝わらない」ことが「違和感の正体」つまり「書く」と「話す」の違いだとわかります。それが起こるのは、最後から二つ目の段落にあるように、「話し言葉では、表情や声色、身振り手振りなどがプラスアルファの表現として加わる」が、書き言葉は「言葉のみで表現する必要があら」るからです。このことを示しているのはウです。ア「強い思いを持っているだけでは」、イ「言葉を使うことは許されない」、エ「その時の気持ちは伝えられない」の部分がそれぞれ不適切です。

③

石垣りんの「初日」『詩の中の風景』所収（婦人之友社）から出題しました。この本は、いろいろな詩に、筆者である石垣りんさんがエッセイを添えたものなのですが、そのエッセイの部分がそれぞれの詩の鑑賞文にもなっています。鑑賞文と詩を読み比べながら問題を解いていきましよう。

問一

B1 置き換え 関連づけ

線①「私たち 太陽の光を 提灯にして／天の軌道を渡ります」とありますが、ここでいう「軌道」とは、星や月などが動いていく決まった道筋のことだと考えられます。地球は太陽の周りを一年で一周します。その決まった動きを指しているでしょう。また、鑑賞文の五段落目に「個々のいのちが、どんな片隅にあっても、地球と一緒に天の高みを越える。人も獣も虫も、すべての生きものが、ひと連りになって、空を渡る」とあるので、「私たち」とは地球上に住んでいる「すべての生きもの」だと考えられます。

問二

A2 知識 関連づけ

普通は「海山美しい この星を／やがて 子供たちが 背負うでしょう」という語順になりますから、ここには倒置法が使われています。

問三

B1 置き換え 関連づけ

線③の二行前に「太陽の光を提灯にして」は、その一回目に使用したものです」とあります。「その」は、「テレビの企画『日本の夜明け』」です。十年続けてきた仕事の中でできた作品を何篇か読んでもらった上で「一回目」のものが選ばれたことを、「初心というものの怖さ」と表現しています。また、直後に「個々のいのちが：それまでにあなたのためにいたイメージでもありません」とあることから、一回目のこの作品は「それまでにあなたのためにいたイメージ」を元旦のテレビの企画に落とし込むことができたということが読み取れます。ア「評価が無条件に高く」、イ「プロの評価は高く

ない」「詩の世界に不慣れな編集者」の部分の不適切です。ウ「詩のテクニク等」をつかわない、「平易な言葉」で書かれているから「初々しさ」が生まれるとは本文中に示されていません。

問四

B1 置き換え 関連づけ

線④の直後に「空にしつらえた舞台の緞帳がするすると上がるかに見える、新年幕開きの設定」とあるように、線④は、我々が、元旦の日の出を特別なものとして受け止め、一年のうち、元旦の朝だけは太陽を「初日」と呼んで、まるで太陽が新しいものに生まれ変わったかのように扱い、一年の始まりを迎えることを表現したものだと考えられます。ア、ウ「初日」が元旦の朝の太陽であることにふれられていません。エ「一年一度の衣裳替え」は人間が「晴れ着に着替える」ことを指したのではなく、太陽が新しいものに生まれ変わったかのように扱うことを指しています。

4

A1 知識 置き換え

気持ちを表現する慣用句はしばしば出題されるものなので、きちんと押さえておきましょう。

① 首を長くする：今か今かとまちこがれる。
 例 クリスマスが来るのを首を長くして待つ。

② 舌を巻く：ひどく感心する。
 例 小学生とは思えない見事な作品に舌を巻く。

③ 二の足をふむ：気が進まなくてぐずぐずする。
 例 あの方にこちらから連絡していいか二の足をふんだ。

④ 手に汗をにぎる：なりゆきを緊張して見守る。

⑤ 例 その試合のスリリングな展開に手に汗をにぎる。
腹にすえかねる：怒りが抑えられない。我慢できない。

例 あいつのあの言い方は腹にすえかねる。

5 **A1** **知識** **置き換え**

四字熟語の問題です。それぞれの意味もきちんとおさえておきましょう。四字熟語の中に同じ漢字が二個入るものは頻出です。しっかりと押さえておきましょう。

- ① 絶体絶命：おいつめられてどうすることもできないこと。
- ② 十人十色：人によってそれぞれ好みや考え方が違っていること。
- ③ 自給自足：生活に必要なものを自分で作って自分で間に合わせること。
- ④ 以心伝心：口に出さなくても、相手に考えや気持ちが行きわたること。
- ⑤ 海千山千：いろいろな経験をつみ、世の中のことを知り尽くして、悪賢いこと。またその人。